

試聴会・訪問記掲載

AVAC 大阪梅田店試聴会報告(2016.7.18)

AVAC大阪梅田店で開催された IODATA "FIDATA" と USB-DAC によるハイレゾ試聴体験フェアに行ってきました。FIDATA といくつかの USB-DAC の組みあわせの相性を探るといふ企画の試聴会です。

<使用機材>



IODATA HFAS1S-10



ESOTERIC N-05



OPPO HA-1



T+A DAC8



Bricasti Design M1 Special Edition



PS オーディオ Direct Stream Dac Jr

FIDATA の USB-DAC 再生動作確認リストおよびネットワーク再生動作確認リストは下記に記載があります。今回は上記5機種についての確認ということになります。

<http://www.iodata.jp/fidata/support/compatible.htm#list-usbdac>



当日のセッティング

<試聴の経過>

店に入ったときは、PS オーディオの Direct Stream Dac Jr が繋がっており、HFAS1 S-10→ Direct Stream Dac Jr→ESOTERIC F05→B&W 804D3 というラインアップで再生が行われていました。HFAS1S-10 が SSD タイプということで一聴して音の静けさが分かりますし、透明感のある音でした。

次に、Direct Stream Dac Jr から、当初のアナウンスにあった T+A の DAC8 ではなく、同じく T+A の DAC プリの AMP 8 に DAC が変わりましたが、やはり透明感のある音ながら、DAC の音がそのままてくる印象でした。

ここでクラシックを所望したところ、96KHz24bitWAV の新世界がかけられました。見通しのよい音でしたが、すこし潤い感が足りないようでした。そこで DSD 音源の再生をお願いしたところ、カンパネラの 2.8MHzDSD がかけられましたが、綺麗な音ながらスタンウェイの迫力みたいなものは届かない印象でした。

さらに DAC を Bricasti Design の M1 Special Edition に替えたところ、非常にソフトでディテールの再現も向上しました。

以上の 3 機種 of DAC しか聴きませんでしたが、HFAS1 S-10 の個性というよりは、DAC を替えると DAC の音そのままた出てくる感じでしたし、音源の音質も変えないでそのまま出してくる印象でした。

HFAS1 S-10 は単なるストレージではなく、ストレージとプレイヤー部が内在していて、OS が Linux であり、USB ケーブルで USB-DAC が接続されるとプレイヤー部が動作して USB ラインを通じて信号を送り出し、LAN ケーブルでネットワークプレイヤーが接続されると NAS として動作するようになっているとのことでした。USB2.0 の規格の標準的な USB-DAC は問題なく自動認識して動作するとのことでしたが、一部特殊な設計をしている MYTEK DIGITAL 192-DSD などでは動作しないということでした。USB-DAC については、通常 Windows 機ではドライバーが必要でも、Linux 上では USB2.0 の規格であれば、ドライバーなしで USB-DAC を認識するそうです。

上掲の USB-DAC 再生動作確認リストによれば、現在使用している micro iDSD も問題なく動作し、CHORD の DAVE とともに 11.2MHzDSD の再生も可能ということで、一度 micro iDSD でのテストを試してみたいと考えています。